



主役は
県民のみなさん。

西内 たかずみ 高知県議会議員

9

月定例会で初めての一般質問を行いました。

問 県教育振興計画の基本的な教育理念をより実効性のあるものにしていくために、道徳を教科として確立させてはどうか。またその為の専任教師を置いてはどうか。

答 (教育長) 道徳は学校教育全般を通して、その中で教育をするのが基本になっている。本県では、道徳教育への反発が長い間続いてきて、実際にはできていないのが実態だと思っている。それではだめだということで、3年計画で道徳教育の推進に取り組んでいる。現在、拠点の学校で道徳教育を先進的に実践しており、そうしたものを広げていきたい。

問 公立大学において、起業などの事業化に関わる直接出資が可能となるように働きかける必要があるのではないか。また、その手段として特区の申請も考えてはどうか。

答 (知事) 国立大学法人に準じた制度改革について、本年8月には国に制度改正の要望を行った。民間企業への出資を可能とすることについては、必要性等について他公立大学の設置者と協議するとともに、県に関係する大学と現行制度の中での工夫も含めて検討をしたい。特区の申請は、よく勉強をしてみたい。

問 木質バイオマスによる発電事業、コジェネレーション[※]に積極的に取り組んで行く予定はあるか。

答 (林業振興・環境部長) 発電事業は、住友大阪セメントでの石炭への混焼以外に現時点で具体的な計画はない。発電による廃熱を動力や温熱等に利用で



12月定例会予算委員会

きる施設を有している事業者であれば、発電事業も成り立つ可能性がある。さらに、本年8月に成立したいわゆる再生可能エネルギーの買取り法の具体的内容によっては、発電事業の可能性が高まることも考えられ、国の動向を注視するとともに、事業化の可能性について情報収集し検討を重ねていきたい。

※コジェネレーション(cogeneration)：内燃機関、外燃機関等の排熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、総合エネルギー効率を高める、新しいエネルギー供給システムのひとつ。

9月定例会の一般質問の冒頭では政治家を志した理由と自身の哲学について触れ、また12月定例会予算委員会でも登壇させていただきました。本紙では掲載スペースの関係でその大部分を省略しました。全文をご覧になりたい方は、高知県議会ホームページの議事録をご利用いただければ幸いです。
(<http://www.pref.kochi.jp/~gikai/minutes.htm>)

略歴

昭和五十六年五月十四日生まれ
吾北村立清水第二小学校卒業
高知学芸中学・高等学校卒業
東京大学卒業
東京大学大学院修了
衆議院福井照事務所公設秘書
高知県議会議員一期目(高知市選出)

世界から高知県を考える。

世界の都市と日本の地方都市が競い合う今日において、高知県の将来はどうあるべきか？ 新進気鋭の西内たかずみ県議にそのビジョンを尋ねる。

― 本日は高知県議会議員の西内たかずみさんにインタビューをしたいと思います。宜しくお願いします。

西内… 西内たかずみです、よろしくお願ひします。

― さっそくですが質問に移りたいと思います。県議員になって一年が経ちましたが、所感をお聞かせください。

西内… まず、議員の仕事とは付託をくださった皆様のおかげに、高知県の将来をより良いものにするための提案を行うこと、そして執行部（知事側）の提出する議案事項をしっかりとチェックすることです。そのためには、日々勉強に勉強を重ねなくては行けませんし、また皆さんとの何気ない会話の中でも現場を知るヒントがあります。ですからいつも緊張といいますが気が抜けないです、だからこそそのやりがいを感じますね。

― 行政をチェックすること、これが議員に課せられた最も基本的かつ重要なお仕事ですね。そして、民意の代弁者として執行部に対して提案も行うと。

西内… そうです。二十三年度の定例会では、私の重視する道徳教育、新（再生可能）エネルギー、産官学連携等について力点を置いて質問・提案をさせていただきました。特にエネルギー関係の勉強を通して、高知県がこれから目指すべき姿がより鮮明になりました。

― ぜひ聞かせて下さい、高知県の将来はどうあるべきでしょうか？

西内… そのことを考えるにあたり、まずは世界と日本、高知の間でどのような影響を及ぼしているのかについて整理する必要があります。地域と地域の間では人とモノ、お金と情報が行き交っています。今回着目するのはモノ、特に資源の動向ですね。

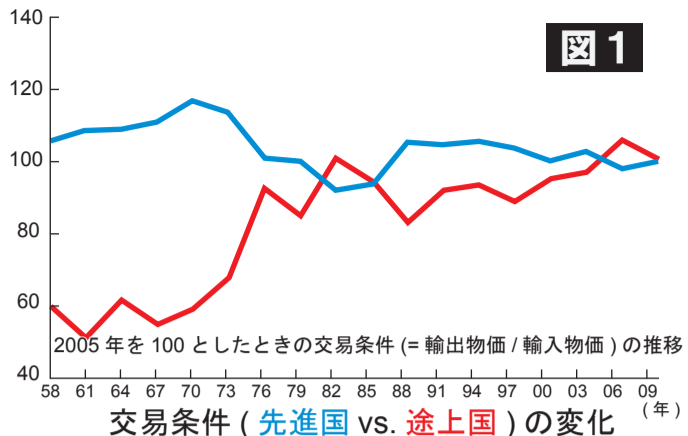


図1 交易条件（先進国 vs. 途上国）の変化
2005年を100としたときの交易条件（=輸出物価/輸入物価）の推移（年）

― 入して、それを製品加工して国内で販売・消費したり、外国に輸出したりしてですね。

西内… 実はその資源の価格が近年高騰しているんですよ。

― 確かに身近なガソリンをはじめとして鉄や銅、レアメタルの価格が高騰！なんてニュースや新聞報道をよく見かけますね。でもモノ余りのデフレ状況、日用品や家電製品なんか値段が下がり続けているのであまり気に留めていませんでした。

西内… 私もテレビが安くなって喜んでました（笑）。しかし、資源価格の高騰が私たちの生活を着実に蝕んでいることも事実なんです。図1をご覧ください。この図は先進国と途上国それぞれの貿易による利益の大きさの経年変化を表しています。

― 図によると先進国の貿易による利益は年を追うごとに横ばい減少し、かたや途上国は年々利益を大きくしていったということですか？

西内… ええ、これこそ今の日本の状況でして、製品の原料の値段が年々高くなってしまい、製品を輸出してもあまり儲けられなくなっています。

― どうしてこのようなことが起きたのでしょうか？

西内… 途上国の交易条件が劇的に改善する70年代にはオイルショックがありました。当時は石油の価格決定権は先進国にありましたが、73年の第四次中東戦争以降はアラブ石油輸出機構（OPEC）、つまり産出国がその価格決定を持ちました。以来、石油・石炭価格はある程度上昇してしまっただけです。

― なるほど、私達先進国はすべての活動を石油・石炭資源と化石エネルギーに依存していますからね。その価格が上がれば原材料費もかさみ利益が減ると…

西内… アメリカなどはモノづくりから早々に撤退して、ITや金融に力を入れました。その行き着く先はご存知のとおりですね。一方、ものづくり大国の今日の日本は、原材料の高騰に供給過剰でデフレ状態、まさに泣き面に蜂といったところです。小泉政権時代には戦後最長の好景気、いざなぎ景気（02〜08年）と言われる期間がありました。好景気の実感がなかったですよ？

― ええ、高知県なんか特にそうですね。

西内… その原因もやっぱり資源高騰にあるんです。高騰は主に投資目的、マネーゲームによって引き起こされま

した。当時、日本のメーカーは、非正規雇用の拡大などによって人件費の圧縮を行い、材料費の高騰を相殺しようとしたのです。これにより図2に示すような現象が起きました。

― これは… つまり売上が伸びるほど人件費が減少しているということですか。どうりで経済成長したと報道されているのに家計が潤わないわけですね。

西内… さらに悪いことに、企業は、日本国内で作った製品を輸出しても利益が出ないのならば、現地で雇用、生産、販売方式をとればよいと考え始めたのです。世界の企業と投資家はより大きな利益を求め、高いリターンを期待できる発展途上国に対して投資活動をはじめました。この企業のグローバル化と投資マネーの無国籍化が

循環型社会がカギ

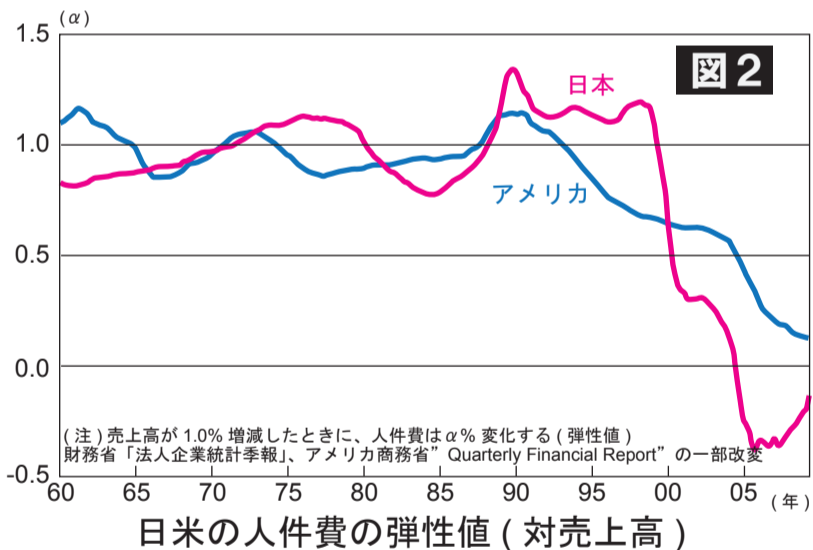


図2 日米の人の人件費の弾性値（対売上高）

日本の地方都市をジワジワと蝕んでいるのです。― といいますが、どういったことでしょうか？

西内… お金の流れに注目してください。途上国への投資によって得られた高い収益は、さらなる高収益のためにどこに流れますか？

― 利益が期待できる限り、途上国ですね。

西内… つまりすでに日本国内に利益が還流されないシステム、お金の流れができあがっているのです。流れの外にある日本の地方都市は、モノを買うたびにお金を流出させてしまう一方、貧乏に拍車をかけるばかりです。

― それでは困りますね、何か対策はないのでしょうか？

西内… 自給率をあげて富の流出を防ぐ、言い換えれば県経済をある程度閉鎖系、循環型社会にしなければなりません。食糧を筆頭に、衣類・雑貨、熱や電気等のエネルギー

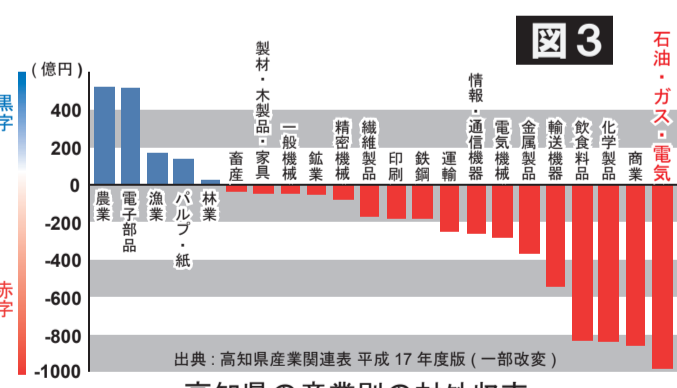


図3 高知県の産業別の対外収支

― などを県内で自給自足する。家電は無理でも食料自給率や再生可能エネルギーは十分可能性がありますね。環境省の調べでは、県内の太陽光、風力、地熱、小水力のエネルギー資源量は少ないそうですが、森林資源はたくさんあります。

― ではバイオマスエネルギーですか？ 具体的にどのような技術なのですか？

西内… 木を使う木質バイオマスを筆頭に、もみ殻や菓物の搾りカスなどを原料にして、熱や電気、あるいは液体燃料などのエネルギーを得る技術です。図3が示すように、高知県は石油・ガス・電気代として年間990億円を県外に支払っています。この一番の赤字をバイオマスエネルギーで自給自足します。特に木質バイオマスの普及は県内の皆さんの産業に影響を与えます。林業、流通、機械産業や廃熱を活用したハウス園芸など。そこで育てた農産物は環境にやさしい（カーボンフリー）として高く売れるかもしれませんね。

― しかもすべて県内産とすれば多少値段が高くても県民が払ったお金は一巡して戻ってくる。

西内… 重要なポイントですね。行政はエネルギーや食糧の県内自給率を改善することに心血を注ぐべきです。そして、これからは生産者かつ消費者でもある県民のみならず、もともともと自給自足、地産地消に理解と協力をしなくてはなりません。できれば本紙の読者の皆様には、まわりの友人・知人に輪を広げていただきたいと思います。私も政治家の責務として、前段の内容を議会や勉強会を通じて、県民のみなさんに広く訴えかけていく決意です。

― ぜひ頑張ってください。紙面の関係でここでインタビューも終わりですが、最後に一言あります。

西内… 最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございます。次回は人の幸せの在り方と健康・福祉の関係または教育についてお話しする予定です。



後援会長 元木 益樹
西内たかずみ君は情熱と行動力はもたらぬこと、誠実さと能力も兼ね備えた人物です。斬新な切り口で政治課題に取り組む、県民の期待に応えてくれることでしょう。後継者の彼を宜しくお願いします。